

2. 事業の概要と成果

(1) プロジェクト 目標の達成度

プロジェクト目標：「カレン州ラインブエタウンシップの4校の小中学校において学習環境を改善し、また、改善された学習環境を学校及び住民が維持できる体制を整える。」は以下の通り達成された。

成果1：住民の教育への意識が高まり、住民は教育の重要性を理解した。また、住民自ら継続して教育環境を改善していけるようになった。

ラインブエタウンシップの対象4校では、住民に対して教育啓発ワークショップを行い、住民と学校運営委員会（School Management Committee、以下 SMC）が協力して教育に関する課題に取り組み、教育環境を改善する活動を実施した。SMC や教員以外の住民も含めて、村の教育に関する課題を共に考え、学習環境を改善していく体制を整えた。加えて、教育の重要性をただ啓発するのではなく、子どもたちにとって必要な教育環境や、それをより良くしていく方法を考え、実際に地域の人々と一緒に自分たちで取り組むことを通じて、子どもの教育の重要性を実感できるよう働きかけた。

成果2：学校校舎・学習設備が整備され、児童が安全に集中して学習に取り組める環境が整った。また、学校施設・設備を学校が維持管理できるようになった。

事業開始前、木造簡易校舎の壁や床には穴が空いたままの状態に必要な修復がされず、危険な状態であった。また、多学年が仕切りのない一つの空間で授業を受けざるを得ないなど、学習に集中するには難しい環境でもあった。事業実施後は、鉄筋及び鉄骨構造の校舎が完成し、各教室も壁で仕切られ、机・椅子や白板など授業に不可欠な備品も備え付けられた。子どもたちは十分な広さのある安全な校舎で、他の教室や外の音に邪魔されることなく集中して学習できるようになり、教師も効果的に授業を行なえるようになった。また、事業対象校及びコミュニティと本事業スタッフとの間で良好な関係を築いたことで、事業対象校の変化や事業実施前には見えなかった新たなニーズを迅速に知ることができた。例えば、トイレが十分でない学校においてはそのニーズを拾い上げ、新規に設置することで、衛生的な学習環境を整備した。

さらに、建設した校舎及びトイレ、井戸、学校設備品を含めた学校環境を自ら維持管理していけるよう、対象校の既存の SMC を再編し、運営能力強化研修を行った。学校施設・設備の維持管理計画を策定するなど、本事業で整備した学習環境を学校が維持できる体制を整えた。維持管理計画には、児童が日々行う清掃活動や不備・要修繕箇所等を発見した時のレポートライン、資金調達計画などが含まれている。資金調達計画はすでに開始しており、将来大規模な修繕等が必要になった際にも SMC が自ら対応できる基盤が整ったと言える。

成果3：保護者が児童の健康状態を改善するために必要な保健衛生や栄養の知識・技術を身につけ、実践している。

児童が衛生状態および栄養状態を改善し、健康に勉強を継続できるようになることを目的に行った保健衛生栄養改善研修の後、トイレを修繕し清潔に保っている世帯や飲み水用のカップを清潔に保つ世帯が増加しているなど、住民の保健衛生に関する習慣が改善しているのを確認した。また、配布した種子を用い、本研修で学んだことを活かし、多くの世帯が家庭菜園を実施しており、児童の健康を気にかける、栄養状態を改善しようとする熱心な姿勢を見ることができた。特に、栄養改善研修の有機肥料の作成・施肥方法と家庭菜園の実施は、住民の主な生計手段である農業に通ずるので、多くの参加者が積極的に取り組んでいた。

上記のとおり、ハードおよびソフト面からのアプローチを通して教育環

	<p>境の改善を行うことにより、対象地におけるカレン州少数民族の子どもたちが継続的に充実した環境で教育を受けられる基盤を整備した。</p>
<p>(2) 事業内容</p>	<p>カレン州ラインブエタウンシップの Lower Pan Nel Taw 中学校、Tan Ta Pin 中学校、Kawt Ta Young 小学校、Nga Pyaw Taw 小学校の 4 校において以下の活動を実施した。</p> <p>(ア) 教育啓発ワークショップ 各校で 6 回ずつ教育啓発ワークショップを行ない、各村の教育に関する課題を議論し、原因の分析を行なった。また、ワークショップ参加者の中からファシリテーターを各校 2 名ずつ選出し、ファシリテーターが他の住民に対してワークショップを行った。原因分析後、課題への対応策として、ワークショップ参加者と SMC が中心となり改善活動を実施した。</p> <p>(イ) 学習環境の整備 ①校舎建設：4 棟（全 4 校、各校 1 棟ずつ） ②トイレ建設：5 棟（全 4 校、Tan Ta Pin 中学校：2 棟、他 3 校：1 棟ずつ） ③井戸建設：2 基（Kawt Ta Young 小学校：1 基、Nga Pyaw Taw 小学校：1 基） ④学校設備品の提供：全 4 校 ⑤学校用教育必需品の提供：全 4 校 ⑥SMC/PTA の維持管理能力強化：全 4 校</p> <p>小中学校 4 校での校舎・トイレ・井戸建設を行なった。 このうち、Tan Ta Pin 中学校においては、申請時に予定していなかったトイレを新たに建設した。事業開始前のニーズアセスメント時には十分使用できる状態にあったトイレが、事業開始後、汚物が浄化槽にたまり逆流し使用不可となったためである。なお、使用不可となったトイレは 1 棟（2 ユニット）であるが、今後、同時期に建設された別のトイレも近いうちに使用不可になることを想定し、2 棟（4 ユニット）を新設した。</p> <p>(ウ) 保健衛生・栄養改善研修 Tan Ta Pin 中学校、Nga Pyaw Taw 小学校、Kawt Ta Young 小学校の 3 校において以下の研修を実施した。 ① 保健衛生研修：各校 4 時間 x6 日 ② 栄養改善研修 1（家庭菜園）：各校 4 時間 x5 日 ③ 栄養改善研修 2（調理・加工）：各校 4 時間 4 日 Nga Pyaw Taw 小学校、Kawt Ta Young 小学校の 2 校において以下を設置した。 ④ ソーラーシステム 保健衛生研修では、衛生的な生活環境を保つ大切さとその実践方法、非感染性疾患を含む病気・けが・感染症（デング熱やマラリア等）の予防と対処方法、経口補水液の作り方などを学んだ。栄養改善研修では、3 大栄養素、身近な栄養価の高い食材の調理方法や自家消費用の野菜栽培方法、有機肥料の作成・施肥方法などについて学んだ。また、研修を受けた参加者から保健推進員を選出し、得た知識と技術を他の住民へ広げる目的で、保健推進員による保健衛生・栄養啓発ワークショップを実施した。 電気が通っておらず光源を確保できない対象 2 校にはそれぞれ 300W のソーラーシステム 1 基を設置した。ソーラーシステムの維持管理方法に関しては学校運営委員会に指導をし、今後、他の学校設備と同様に学校が維持管理を行っていく。</p>

(3) 達成された成果

(ア) 教育啓発ワークショップ

【裨益者数】直接裨益者：160名（男性87名、女性73名） / 間接裨益者：約4,000名（村の住民、児童、保護者）

【成果 1-1】住民の教育への意識が高まり、教育の重要性を理解する。また住民自ら継続して教育環境を改善していけるようになる。

【指標 1-1】申請時には、教育に対する意識調査で70%以上の住民が教育に関心があると回答することを指標としていたところ、事業実施後、学齢期の子どもをもつ世帯からランダムに抽出した271世帯を対象に実施した教育への意識を測る調査では、被験者全員が子どもの教育に関心がある、重要だと思うと回答した。また、今後村で教育改善活動が実施される際には参加したいと被験者全員が回答した。「子どもたちが勉強する学校をどのように維持管理するか、子どもたちが教育を受けることができるようにどのように後押しをしたら良いかを知ることができた。」という裨益者の言葉にも象徴されるように、教育啓発ワークショップが、住民の教育への関心の高まりに一定の寄与をしたと言える。

【指標 1-2】申請時には、教育改善のための活動を住民が立案・実施することを指標としていたところ、教育改善活動では、各校において、水タンクと水飲み場の設置、学校給食の実施、学校環境美化のための植樹、校庭の遊具設置、教員補充などを住民自らが実施し、住民が一丸となって学校環境改善に取り組む姿勢が見られた。なお、他機関による支援と内容が重なる場合は、住民が担当者と事前に調整して重複を避けるなど、住民自らが積極的に活動していることが確認された。

また、すぐに対応できなかった課題の中には、SMCで引き続き議論され、改善したものもある。例えば、Nga Pyaw Taw小学校では教員不足が課題の一つにあがっていたが、教育局に手紙を送り続けた結果、2019年7月から1名の教員が追加され、また、村長の働きかけで村からボランティア教員を充てて教員確保に努めた。これらの事例からも、住民自らが継続して教育環境を改善していく力を身に着けたことがうかがえる。

(イ) 学習環境の整備

校舎・トイレ・井戸建設および学校設備品・学校用教育必需品の提供

【裨益者数】4校の生徒692人および今後入学する生徒、教員30人

【成果 2-1】学校校舎・学習設備が整備され、児童が安全に集中して学習に取り組める環境となる。

【指標 2-1】申請時には、4校の校舎・トイレ・井戸が建設され学習に適した環境が整うことを指標としていたところ、子どもたちは、隣のクラスの授業の音や外からの風雨などの影響を受けない教室で、安全に学習できるようになった。また、各校の教室には、生徒用机と椅子が各40セット、教員用机と椅子が各16セットの他、棚や白板も設置された。Tan Ta Pin中学校では、当初計画にはなかった2棟のトイレ建設を行なうことで、変化する学校環境とニーズにあわせながら、対象校の全生徒の学習環境を整備することができた。

SMCの能力強化研修

【裨益者数】住民と児童計48名（各校12名ずつ）

【成果 2-2】

学校運営委員会に対して維持管理能力強化活動を実施する。

【成果 2-3】

学校運営委員会が学校施設・設備を維持管理できるようになる。

【指標 2-2】申請時には、学校運営委員の 80%以上が出席する維持管理能力強化活動が 4 校で実施されることを指標としていたところ、4 校で実施された本研修の平均出席率は 91%であった。学校運営委員各自が自覚を持って、モチベーション高く研修に参加したことが伺え、今後の学校の自主的な維持管理に繋がる成果と言える。

【指標 2-3】申請時には、学校運営委員会によって維持管理計画書が作成され、計画書に沿って学習環境が維持・管理されていることが確認されることを指標としていたところ、研修における、校舎建設後の維持管理計画や学校環境改善のための活動に関する議論を通し、SMC のルール決めや定期開催、議事録の保管など体系的な SMC 運営と学校の維持管理を目指した維持管理計画書が各校の SMC で作成された。計画書には、毎月各世帯から学校環境の維持管理費として定額を徴収したり、SMC が住民に融資をして返済時の利子を学校維持管理費のためにプールするといった、学校維持管理費を工面するための資金調達計画も含まれている。また、徴収した資金の管理について研修をして欲しいと各校の SMC から要望が挙がり、本事業の会計スタッフによる勉強会を行った。事業実施前には形骸化し、機能していない SMC もあった中で、各校から当初の想定を上回る綿密な計画書が提出され、またそれを実施しようとする積極性も見て取ることができた。維持管理計画書作成後から、計画書に沿って学習環境が維持・管理されていることが確認できており、各 SMC の学校運営能力は大幅に強化されたと言える。

(ウ) 保健衛生・栄養改善研修

【裨益者数】直接裨益者：120 名（40 名 x3 校） / 間接裨益者：約 1,700 名（村の住民、児童、保護者）

【成果 3-1】研修に参加した保護者が児童の健康状態を改善するために必要な保健衛生や栄養の知識・技術を身につけ実践する。

【指標 3-1】申請時には、研修に参加した保護者が理解度を測るテストで 70%以上正答することを指標としていたところ、平均正答率は 80%であった。研修内容に関して一定の理解・習得が行われたものと考えられる。

【指標 3-2】申請時には、研修前後の保健衛生・栄養の知識・行動調査の比較において、行動と知識の面で 60%以上の研修参加者に前向きな変化が見られることを指標としていたところ、研修参加者 120 名を対象に実施した調査では、例えば、研修前後で、石鹸を使って手洗いをしているという回答が 62%から 92%に増加した。また、手洗いをするタイミングについても、以下のように 2%~55%の研修参加者に意識と行動の前向きな変化が確認された。

When do you wash your hands?(multiple answers allowed)	Before training	After training	Increase rate
1.When hand are dirty	39%	94%	55%
2.When returning to home from work/from outside	5%	49%	44%
3.Before eating	94%	99%	5%
4.After eating	97%	99%	2%
5.After defecation	38%	70%	32%
6.Before preparing food	16%	66%	50%

7.After cleaning infant who has defecated	3%	38%	35%
8.After touching animals	3%	42%	39%
9.After disposal of animal faeces	1%	41%	40%

加えて、研修修了数か月後に行なった家庭訪問調査では、飲み水用のカップを清潔に保つ家庭が33%から72%に増加した。また、家庭用トイレの機能性において46%から84%、清潔性において22%から64%の改善が見られ、トイレを修繕し掃除及び手洗い用の水を常備してより機能的にするなど、プラスの行動変容が確認されている。

How much clean is the water drinking cup?	Before training	After training	Increase rate
1.Clean	33%	72%	39%
2.Somewhat clean	62%	28%	-34%
3.Somewhat unclean	5%	0%	-5%
4.Not clean	0%	0%	0%

Functionality	Before training	After training	Increase rate
1.Functional	46%	84%	38%
2.Partially functional	54%	16%	-38%
3.Not functional	0%	0%	0%

In general, how clean are the toilet facilities?	Before training	After training	Increase rate
1.Clean	22%	63%	42%
2.Somewhat clean	69%	31%	-38%
3.Somewhat not	8%	6%	-2%
4.Unclean	1%	0%	-1%

栄養、健康面においても、本研修で配布した種子を使って家庭菜園を作るなど、研修で身に着けた知識・技術を実践している様子が見えられた。

「持続可能な開発目標(SDGs)」に該当する目標における成果

本事業は、目標4「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」に貢献した。

具体的には、老朽化した校舎で限られた学校設備品を共有して勉強していた子どもたちが、本事業で整備した学習環境の中で安全に勉強できるようになった。建設物は教育省が定める設計図を基に、現地で調達でき、住民が自分たちで維持管理できる資材と構造に変更したのち、教育局から許可を得て建設した。

また、整備された学習環境を住民及び保護者たちで維持管理し、改善する取り組みを続けることで、子どもたちの継続的な学習の機会を保障する。さらに、保健衛生・栄養改善研修の講師を保健省のスタッフに依頼したことにより、各学校が保健省と関係性を構築することができた。今後保健省のスタッフが村を訪問し、保健推進員や住民が保健衛生に関する知識やアドバイスを受けることで、彼らの生涯学習の機会を促進することが期待される。

<p>(4) 持続発展性</p>	<p>(ア) 教育啓発ワークショップ 教育啓発ワークショップで話し合った村の教育問題に対する活動案を SMC と協議・計画・実施し、具体的な活動に結び付けることで、事業終了後も住民が主体的に教育問題を考え、分析し、行動していく能力を培った。活動後の調査では、学齢期の子どもをもつ親の多くが今後教育改善活動を実施する際にも参加したいと回答した。事業終了後も SMC が中心となって教育課題を議論し、改善活動を行っていく計画はあり、活動に対して前向きな保護者とともに活発な議論および活動が期待される。</p> <p>(イ) 学習環境の整備 本事業のエンジニアが、SMC に対し建設物の維持管理のための研修を行った。なお、研修で使用した視覚教材は学校に掲示されており、普段から目に触れるようになっている。また、破損や損壊に気づいた際には、児童や教員から報告を受けた校長が SMC に報告し、SMC が対応する体制も整えられている。なお、校舎等の学校施設の清掃については、教師と児童で構成される 5 つのグループを作り、ローテーションを組んで毎日清掃をし、学校環境の維持管理に努めている。さらに、各 SMC が作成した維持管理計画書には資金調達計画も含まれている。事業期間の中ですでに実施しており、各学校の SMC が将来のメンテナンスに備えて資金を蓄え、準備している。また、SMC からの要望を受け、本事業の会計スタッフによる資金管理の勉強会を行なった。上記により、事業終了後も学校・SMC・住民により継続的に維持管理できる体制が十分に整えられた。</p> <p>(ウ) 保健衛生・栄養改善研修 研修後に選出した保健推進員が保健衛生・栄養のアドバイザーとなり、保健省から派遣されるスタッフが村を訪問し検診などを行う際には同行し、サポートする。なお、保健省が本研修を 2019 年 7 月 17 日付の全国紙で紹介したことからも、保健衛生及び栄養状態の改善を重要視していることがうかがえ、今後も保健省と村及び保健推進員の協力体制の継続が期待できる。</p>
------------------	--